

2020年東京オリンピック・フェンシング競技への日本国審判員選出方針

平成30年6月1日
日本フェンシング協会
審判委員会
東京2020対策委員会

2020年に開催予定の東京オリンピック・フェンシング競技には、国際フェンシング連盟（FIE）より、我が国に対して8名の審判員を輩出することが要請されており、右8名の氏名を2019年10月31日までにFIE側に通報することが求められているところ、同8名の審判員選定の基準、育成計画、選定方針を以下の通りとする。

1 選定基準

- (1) 8名の審判員は、2019年9月30日時点で有効なFIE審判員資格を有している者とする。
- (2) FIE規程に基づき、オリンピック年（2020年）6月30日時点で、満59歳以下の者を対象とする。
- (3) 上記（1）（2）の内、FIE審判員マスターリストに掲載されている者を優先する。
- (4) 上記（1）（2）の内、2種目以上の審判資格を有している者が優先される。8名の審判員の選定は、種目のバランスを考慮して、一定の種目に集中しないように審判委員会が調整する。
- (5) 適正なジェンダー・バランス（男女間の比率）が考慮される。
- (6) 上記（1）～（4）の基準を満たした上で、2020年以降のレガシーに配慮し、若い世代を優先する。

2 育成計画

(1) 国内試合における実績評価

2020年東京オリンピックの審判員候補者（以下、「候補者」）は、今後大なわれる全日本（個人）、全日本（団体）、国体、都シニア、ランキングマッチ（一部）の内、年間最低3大会に審判として参加しなければならない。これら大会に参加する候補者に対して、審判委員会は、FIE審判マスターリストで用いられている採点基準（「審判員としての実力」(Performance of refereeing) と「個人の資質」(Personality)）に基づいて採点を行う。

- (2) **審判セミナーの開催（ルール：ビデオにおけるフレーズの解析；用語等）**
標記セミナーを2018年6月から2019年10月までの間にJISSで2回開催する予定（日時・開催場所は検討中）のところ、候補者は同セミナーに必ず参加しなければならない。
- (3) **候補者の面接**
候補者に対しては、2018年6月から2019年3月までの間に2回、審判委員会委員長又は副委員長が面談を行い、オリンピック審判員を務める意志の確認と個別指導を行う。面接は、可能な限り、都内の適当箇所で行うが、遠方在住者で都内への来訪が困難な対象者については、審判委員会の面接官が出張して面接を行うことも視野に入れる。
- (4) **自主練習**
候補者には、協会強化本部に連絡し、各種目の練習試合のスケジュールを入手、右練習試合に合わせて自主的に審判練習を行うことが奨励される。同練習を行う際は、事前に審判委員会に連絡することが求められる。
- (5) **遠征**
審判委員会は、上記2（1）の順位も考慮の上、FIE審判員資格保持する候補者をFIEが行う大会（主としてジュニア・ワールドカップ審判員、シニアグランプリ大会帯同審判員）に審判委員会予算で遠征せしめ、実績を積ませる。
- (6) **近隣アジアからの審判員招致**
審判委員会は、同委員会予算を以て、2018年9月開催予定のアジアベテラン選手権大会（和歌山）及び12月開催予定の全日本個人選手権大会に近隣アジアより計3名のオリンピック審判員または同レベルの審判員を招致することを予定しているところ、候補者はこれら大会に審判員として積極的に参加し、これらアジアの審判員からストロング、テクニク、コントロールを学ぶことが期待される。
- (7) **FCA審判員のFIE審判資格取得奨励**
現時点で、FIE資格を有していないFCA資格保持者が候補者となるためには、可能な限り早急にFIE審判試験を受験し、FIE審判資格を取得することが期待される。

3 選定方針

- (1) 上記2の育成計画を経て、2019年9月30日時点で上記1の基準及び上記2（4）の順位に基づき、最終候補者8名及び補欠者2名のショート・リストを作成する。
- (2) 上記3（1）のリストは、2019年10月31日までにFIEに提出

される。

(3) 上記3(1)のリストに掲載された審判員は、高円宮牌(テストイベント)や事前合宿、大会前のリハーサル等に積極的に参加し、更なるスキル・アップを行うことが期待される。

(了)